

長崎縣下の秋季レプトスピラ病分布調査補遺

長崎大学風土病研究所臨牀部（指導 兼任所員 横田教授）

後 藤 正 彦

長崎大学医学部内科学第一教室（主任 横田教授）

長崎大学医学部内科学第一教室（主任 横田教授）

吉 田 静 磨

長崎大学風土病研究所臨牀部（指導 兼任所員 横田教授）

I 緒 言

秋季レプトスピラ病(以下秋季レ病と略す)は秋疫レプトスピラ A、B、C 三種のレプトスピラを病原体とする熱性疾患の總稱である。秋疫レ A は大正 13 年静岡県に於て塩澤等により、秋疫レ B は大正 6 年福岡縣に於て井戸等により、秋疫レ C は昭和 13 年静岡県に於て塩澤等により夫々發見せられた。本症は病名の示す如く秋季に發生し、多くは惡寒の後烈しき頭痛、筋痛、食思不振等を以て 39 度乃至 40 度の高熱を發し、1 週間内外で不全分利狀に解熱する。脱力感強く、殆んど全例に眼球結膜の充血を認め、後遺症として硝子体濁濁を來すものが多い。

日本に於て秋季レ病に關し既に研究された同病の發生地及び其の病名の主なるものは、福岡縣の七日熱、静岡県秋疫、天龍熱及び用水病、岡山縣の作州熱、長崎縣の波佐見熱、大分縣のアツケ熱、高知縣の土佐熱等である。其の他新潟、富山、茨城、埼玉、千葉、岐阜、京都、滋賀、兵庫、廣島、山口、愛媛等の府縣に於ても秋季レ病發生の報告がある。九州に於て前述せる福岡、長崎、大分以外の地方で秋季レ病に關し、比較的最近發表されたものに、鹿児島縣及び宮崎縣に於ける後藤等の報告、鹿児島縣に於ける柴原等の報告、熊本縣に於ける河北等の報告、南九州三縣に亘る青木の報告、長崎縣に於ける操等の報告がある。

長崎縣に於ては、小島居は既に明治 35 年頃より波佐見地方に發生する熱性疾患に著目し、或時はワイル氏病様疾患として、或時は七日

熱類似疾患として、又所謂波佐見熱として疫學的並びに臨牀的研究をしてきたが、遂に昭和 6 年所謂波佐見熱患者より阿部、小島居等により秋疫レ A が病原体として分離されるに至つた。續いて昭和 8 年小島居は所謂波佐見熱の中にも秋疫レ B の混在せるを發見した。

長崎縣に於て、比較的廣範圍に秋季レ病の分布狀態を免疫血清學的に調査したのは、昭和 8 年に於ける小島居の調査が唯一のものである。其の分布調査成績は第 1 表に示す通りである。

第 1 表 長崎縣下のレプトスピラ病分布
(昭和 8 年 小島居才吾調査)

郡 名	町 村 名	A	B	W
東 彼 杵	日 宇	1		
	早 岐	1		
西 彼 杵	土井の首		2	
	高 浜		2	
	長 浦		3	
	矢 上	1		
	瀬 戸			1
北 高 来	江 の 浦	1		
	古 賀	1	1	
	田 結		1	
南 高 来	島 原	1		

即ち西彼杵郡に於ては、土井の首村（現在長崎市の一部）B2例、高濱村 B2例、矢上村 A1例、長浦村 B3例、北高来郡では、江の浦村 A1例、古賀村 A、B各1例、田結村 B1例、東彼杵郡に於ては、日字村（現在佐世保市の一部）A1例、早岐町（現在佐世保市の一部）A1例、南高来郡方面では島原市 A1例である。操等の昭和25年度の調査によれば、西彼杵郡高濱村に於て免疫血清學的に

陽性を示したものは、B8例 C4例となつてゐる。尙終戦後の青木の調査ではワイル氏病乃至秋季レ病様症状を呈する患者は諫早市、彼杵半島の長浦、龜岳、大串、瀬戸、神浦、福田、野母半島の脇岬、東彼杵郡の彼杵、折尾瀬等の各市町村に發生してゐる由である。

著者等は昭和25年以降、長崎縣下の秋季レ病分布調査を畫て現在迄に其の一部を調査したので、取敢へず報告する。

II 調 査 方 法

現在迄系統的調査は行つてゐない。長崎県各地に催される医師会、医学集談会等に努めて出席し、秋季レ病に関する発表を行つて我々の調査に協力を求め、一方機会を求めて、県内各地の開業医家を訪れ、本病の流行状況を聴取し、其の外、長崎大学医学部附属病院を訪れる患者の既往歴に注意する等の方法を用いた。而して秋季レ病様症状を呈した患者に就

ては、有熱期間に於ては患者血液よりの秋季レの培養、恢復者に於ては恢復期血清を以てする秋疫レA、B、C及びワイルとの凝集反応を行つて其の型を定めた。現在迄に調査した地域は、大村市の一部、東彼杵郡波佐見地方、西彼杵郡の一部、北高来郡の一部、南高来郡の一部のみである。

III 調 査 成 績

調査成績の概要は第2表及び第3表の通りである。

即ち免疫血清學的に秋季レ病と推定されたものは、昭和25年に36例（其他ワイル氏病4例）、昭和26年に14例（其他ワイル氏病1例）である。両年度の発生患者を地域別に見るならば、東彼杵郡波佐見地方にA35例、B8例、大村市にB1例、西彼杵郡に於て龜

岳村にA、B、C各1例、長浦村にB2例、北高来郡の小江村にA1例であるが、其の外にワイル氏病が大村市に4例、長崎市に1例証明された。以上の中、ワイル氏病を除いた秋季レ病のみに関する年令、性、職業及び患者発生月別の調査は以下の如くである。

年令別に見るに、10才以下1例、11～20才21例、

第 2 表 昭和25年度長崎縣下の秋季レプトスピラ病（後藤、吉田調査）

番号	患者姓名	住 所	性	年令	発病月	病型	職 業	紹介医師
1	田川 ○○	西 彼 龜 岳	男	18	9	B	農	竹 原
2	相川 ○○	〃	男	40	7	C	農	〃
3	福田 ○○	大 村 市	男	13	8	B	生徒	田 川
4	越田 ○○	〃	男	25	9	W	農	〃
5	増田 ○○	〃	男	32	11	W	農	〃
6	生垣 ○○	〃	男	25	9	W	農	〃
7	福重 ○○	〃	女	23	9	W	農	〃
8	太由 ○○	西 彼 長 浦	男	53	9	B	農	朝 永
9	北島 ○○	北 高 小 江	男	37	8	A	農	吉 田
10	堀田 ○○	東 彼 下 波 佐 見	女	19	8	A	農	渡 川
11	田崎 ○○	〃	男	18	8	A	農	〃

12	山口	〇〇	東彼下波佐見	女	41	8	A	農	瀬	川
13	田中	〇〇	〃	女	15	8	A	生徒	田	尻
14	本山	〇〇	〃	男	34	8	A	農	〃	〃
15	岩永	〇〇	〃	男	26	8	A	農	〃	〃
16	福田	〇〇	東彼上波佐見	男	17	7	A	生徒	朝	長
17	村山	〇〇	〃	女	8	8	A	生徒	〃	〃
18	光岳	〇〇	〃	女	42	8	A	農	〃	〃
19	山口	〇〇	〃	女	21	8	A	農	〃	〃
20	長島	〇〇	〃	男	49	9	A	農	広	瀬
21	山本	〇〇	〃	男	13	8	A	生徒	山	道
22	朝長	〇〇	〃	男	14	8	B	生徒	〃	〃
23	鶴川	〇〇	〃	男	13	8	A	生徒	〃	〃
24	井上	〇〇	〃	男	24	9	A	農	〃	〃
25	古川	〇〇	〃	男	25	8	B	陶工	〃	〃
26	上口	〇〇	〃	男	32	9	A	農	〃	〃
27	秋月	〇〇	〃	男	53	9	A	農	広	瀬
28	片山	〇〇	〃	男	26	10	A	農	〃	〃
29	牛島	〇〇	〃 下	男	16	8	A	生徒	坂	口
30	田崎	〇〇	〃 上	男	26	9	A	農	〃	〃
31	岩永	〇〇	〃 下	女	28	9	A	農	朝	長
32	永田	〇〇	〃	女	12	9	A	生徒	〃	〃
33	小島	〇〇	〃	男	14	9	B	生徒	〃	〃
34	藤	〇〇〇	〃	女	23	9	A	農	〃	〃
35	松沢	〇〇	〃	男	22	10	A	農	田	尻
36	田中	〇〇	〃	男	20	10	A	農	〃	〃
37	田上	〇〇〇	〃 上	男	68	11	A	農	山	道
38	森村	〇〇	〃	男	52	9	A	農	坂	口
39	石本	〇〇〇	〃 下	男	30	10	A	農	田	尻
40	山田	〇〇	〃	男	25	10	A	農	〃	〃

21～30才 11例、31～40才 8例、41～50才3才、51～60才 4例、61才以上 2例である。

性別に見るに、男子 41名、女子 9名で、男子対女子の比は概ね 4.5対1 である。

職業別に見るに、農業 30名、生徒 14名、陶工 2名、日雇、瓦工、公吏及び商人各々一名である。

患者の月別発生数は 7月 3名、8月20名、9月21名、

10月 5名、11月 1名である。

西彼半島に於ける福田村、式見村地方に於ては、著者等が両地の開業医を訪れ調査したところでは、秋季レ病らしき患者の発生はない様である。南高来郡の口之津町附近には秋季レ病様患者発生あるらしき模様なるも、未だ免疫血清学的調査を試みてゐない。

第 3 表 昭和26年度長崎県下の秋季レプトスピラ病（後藤、吉田調査）

番号	患者姓名	住 所	性	年令	発病月	病型	職 業	紹介医師
1	中道 ○○	長 崎 市	男	27	7	W	鮮魚商	諸 熊
2	浦上 ○○	西 彼 龜 岳	男	20	7	A	農	竹 原
3	島本 ○○	西 彼 長 浦	男	19	8	B	農	竹原、朝永
4	平尾 ○○	東彼上波佐見	男	69	9	A	農	坂 口
5	田川 ○○	〃	男	37	9	B	農	〃
6	西田 ○○	〃	男	17	9	A	瓦 工	渡 川
7	原 ○ ○	〃	男	13	9	B	生 徒	山 道
8	原 ○ ○	〃	男	11	9	B	生 徒	〃
9	松本 ○○	〃	男	34	9	A	日 雇	朝 長
10	堀田 ○○	〃	男	12	9	B	生 徒	山 道
11	西 ○ ○	〃	男	59	9	A	商	朝 長
12	安田 ○○	〃	男	20	9	B	農	山 道
13	古川 ○○	〃	男	36	8	A	陶 工	三 根
14	井田 ○	東彼下波佐見	男	12	8	A	生 徒	渡 川
15	黒崎 ○○	〃	男	36	8	A	公 吏	朝 長

IV 考察並びに總括

長崎縣下秋季レ病の分布に關し、小島居、青木、操等の調査結果と著者等の調査成績とに就て述べて來たのであるが、之等の成績を考察してみる時、二三の興味ある事項に遭遇する。即ち

1) 現在迄の調査成績より見るならば東彼杵郡に於ては秋疫レAが多く、其の中にBが混在して居り、西彼杵郡に於ては秋疫レBが多く、其の中にA及びCが混在してゐる。

2) 小島居が昭和8年行つた調査の際、西彼杵郡高濱村の2例と日見村の1例とに於て、免疫血清學的に陰性の成績を得た3例は秋疫レCによるものではなかつたかと言ふことである。當時秋疫レCは未だ發見されて居らず、而も昭和25年度の操等の調査により、高濱に4例のCが証明せられたからである。

3) 大村市福重地方に於ける本病の流行であるが、同地に開業せる田川の言によれば、終戦後同地方には未だ一度も同病の發生を見

なかつた由である。然るに昭和25年秋季に初めてワイル氏病様症狀を呈せる患者數名發生す。恢復期の患者血清を以て著者等が行つた凝集反應の成績では5名中ワイル氏病4名、秋疫レB1名であつた。昭和26年には1名も秋季レ病様患者の發生を見てゐない。本病の流行がレプトスピラの保有者である鼠の分布に關係することは、既に多數の學者により証明せられたところである。又降雨により自然水がレプトスピラの發育至適域に修正されることも既に究明された事實である。同地方に於てレプトスピラによる疾患が昭和25年度丈に發生したことも何か上記の如き因子の影響によるのであらう。同地方は大村市内とは言へ、殆んどすべて農村地帯である。長崎縣下に於てワイル氏病が農村で免疫血清學的に証明されたのは西彼瀬戸町に於ける小島居の發表がある。大分縣のアツケ熱、高知縣の土佐熱、岡山縣の作州熱等に於ても、ワイル氏

病の混在が報告されてゐる點より考へるならば、敢へて不思議とするに足らないであらう。

4) 波佐見地方に於ては、秋疫レCの發見以來、所謂波佐見熱に關する研究が殆ど中斷された感があり、波佐見地方に秋疫レCの存在するや否やを確めたものはなかつた。著者等が昭和25年及び26年度發生患者約50名に就て行つた凝集反應の成績では、秋疫レCによると思はれるものは1例も見出すことは出来なかつた。波佐見地方に於けるAとBとの關係であるが、昭和6年阿部等の調査及び昭和7年小島居の調査では全例Aであつたが、昭和8年小島居は19例中A16例、B3例を証明した。昭和9年は12例共Aである。我々は昭和25年にA28例、B3例、昭和26年にA7例、B5例を証明して居り、漸次Aに對するBの割合が増加する傾向が見られる。

小島居、青木、操等の調査及び著者の成績を綜合するに、長崎縣下で免疫血清學的に秋季レ病の存在が証明されたものは第4表に示す通りである。

即ち長崎市B(W)、佐世保市A、大村市B(W)、島原市A、東彼杵郡波佐見地方A及びB、西彼杵郡龜岳村A、B及びC、長浦村B、矢上村A、高濱村B及びC、(瀬戸町W)、北高來郡古賀村A及びB、田結村B、江の浦村A、小江村Aである。縣下の總計

(編纂するに當り横田教授の御指導と御校閲に對し深謝すると共に、又御多忙の中を患者を紹介されし開業医の方に感謝の意を表す。併せて本調査に當り種々御便宜を與へられし登倉教授及び青木教授に謝意を表す)

参 考 文 献

- 1) 鹽澤 純一：レプトスピラ及びそれによる疾患に就て、日本伝染病学会雑誌、9：213、昭9
- 2) 鹽澤、久保：秋季レプトスピラ病、日本医事新報、967；15 昭16
- 3) 稻田、鹽澤：黄疽出血性レプトスピラ病「附」秋季レプトスピラ病、昭26
- 4) 稻田、井戸：ワイル氏病原体—新種スピロヘータ発見概括報告、東京医事新誌、1908；351、大4
- 5) 北村、原：秋疫病原体に就て、東京医事

第4表 長崎県下のレプトスピラ病分布
(綜合成績)

市 郡	町村名	A	B	C	W
佐世保市		2			
東彼杵郡	上、下波佐見	78	11		4
大村市			1		
西彼杵郡	龜岳	1	1	1	
	長浦		5		1
	瀬戸				
	矢上	1			
	高濱		10	4	
北高來郡	古賀	1	1		
	田結		1		
	江の浦	1			
	小江	1			
島原市		1			
長崎市			2		1

はA86例、B32例、C5例(W6例)である。

以上の中、著者等の初めて發見した秋季レ病の分布地域は、大村市及び北高來郡小江村である。又長崎縣下に秋疫レCの存在を操等と同じ昭和25年に初めて確かめることが出来た。

新誌、2056；251、2057；116、大7

6) 神島芳盛外2：秋疫の病原体に就て、東京医学会雑誌、38；429、大13

7) 鹽澤純一外2：静岡県天龍川畔の地方病(黄疽出血性レプトスピラ病と類似疾患)病原レプトスピラの所屬に就て、東京医事新誌2653；2411、昭4

8) 下村 光男：高知県地方のレプトスピラ病に關する研究第一報、日本伝染病学会雑誌、13：1、13；137、13；294、昭13

9) 下村 光男 : 高地県地方のレプトスピラ病に関する研究第二報、日本伝染病学会雑誌、13 : 1188、昭14

10) 阿部俊男外 4 : 長崎県上、下波佐見地方に於ける熱性地方疾患の病原体に就て、日本伝染病学会雑誌、7 : 457、昭8

11) 小島居、雨森 : 波佐見熱に就て、日本伝染病学会雑誌、7 : 368、昭8

12) 小島居才吾 : 波佐見熱、日本医事新報、967 : 21、昭16

13) 佐藤 道雄 : 所謂アツケ熱(大分県野津原地方に流行する一熱性疾患)に就て、日本伝染病学会雑誌、8 : 117、8 : 252、昭8

14) 佐藤 道雄 : 所謂アツケ病に関する免疫学的研究、日本伝染病学会雑誌、10 : 105、昭10

15) 佐藤 道雄 : 所謂アツケ病(大分県下に流

行する一熱性疾患)に就て、日本医事新報、967 : 23、昭16

16) 後藤、上田 : 南九州に於ける Leptospirosis の病原的研究、第3報、長崎医学会雑誌、20 : 327、昭17

17) 青木 義勇 : 風土病誌(1) 南九州のレプトスピラ病、臨牀ト研究、24 : 67、昭22

18) 青木 義勇 : 風土病誌(4) 其後の波佐見熱、臨牀ト研究、25 : 445、昭23

19) 河北靖天外 5 : 昭和24年夏熊本県下に発生した秋季レプトスピラ病の臨牀、日本内科学会雑誌、39 : 54、昭25

20) 操擁道外 4 : 長崎県西彼杵郡高浜村に於ける秋季レプトスピラ病に就て、東京医事新誌、68 : 5、昭26

この調査研究の一部は、昭和26年度文部省科学試験研究費補助金の一部に依つたもので、此処に記して謝意を表する。

(昭 27. 3. 8 受付)